

ワークショップ 肥満症Q & A

Q20：「患者さんがその一言でやる気になった」という動機付けになった名台詞がありましたら、お教えてください。

本田 ご登壇の先生方お一方ずつ、その一言をお願いします。

石川 肥満についてはきちんと患者さんを診て、きちんと治療をすることが大事であると思っています。

「現体重を10%減らせば肥満の合併症、各種検査異常値は改善します」と説明しています。

大関 子供の人生は非常に長いので、長い人生を見た治療、彼らの長い一生に責任を持つ治療をしようということを申し上げたいと思います。

白井 ある看護師さんがいろいろと傾聴的態度で接したあと、患者さんに「私がついていてあげます。頑張りなさい。できるに決まっていますよ」と言ったところ、患者さんが非常に明るくなりました。積極的に治療に取り組むようになりました。要はスタッフの「熱意」それも「持続性」のものですかね。

宮崎 1回外来に来たら、「とことんやりましょう」というようなことしかないでしょうね。「ずっと付き合いますよ、どんな時でも一緒にやりまし

ょう」ということを申しあげます。

勝川 私が外来に最初に来た患者さんに必ずお話しするのは「肥満治療の目標は体重を減らすことではなく、減った体重を維持することだ」ということです。体重を減らすのは比較的簡単ですが、減らしたあとを考えている人が少ない。そこを明確に意識しながら、これから一緒にやっていきたいと思います。というような話をします。